

## ICMCTF 2017 参加報告

博士課程 2 年 武末翔吾

私は 2017 年 4 月 24 日～28 日にアメリカ カリフォルニア州のサンディエゴで開催された 44th International Conference On Metallurgical Coatings and Thin Films (ICMCTF 2017) に参加してきました。この会議は毎年サンディエゴの Town and Country Resort & Convention Center で開催されています。サンディエゴは成田空港から直行便があり、日本からも比較的アクセスしやすいです。参加者はアメリカやヨーロッパ、アジアの方が中心ですが、南米やアフリカからの参加もあり、世界各国でこの分野に関して研究されていることが感じられました。

この会議では各種コーティングや薄膜に関する講演が 5 日間にわたりあります。セッションは PVD, CVD, 溶射など各種成膜プロセスに注目したもの、生体内や高温環境下など使用環境に注目したもの、DLC など特定のコーティングに注目したものなど様々ありました。

私は 3 日目の 4 月 26 日に“Properties and Characterization of Hard Coatings and Surfaces”というセッションで、“Effects of treatment temperature and gas blow velocity of IH nitriding on microstructure of titanium alloy”という題目で発表しました。このセッションでは硬質コーティングや表面の各種特性を検討した結果について 2 日間にわたり発表がありました。私にとっては約 3 年ぶりの国際学会での発表で、発表する部屋も今まで経験した中で最も広い部屋でしたが、緊張はあまりせず、発表は事前に練習した通りにしっかりできたと思います。質問もいただけたので、私の研究内容を伝えることができ、また興味ももっていただけたと感じました。質疑応答については、質問内容はある程度理解できたものの、質問に対して的確に英語で答えることができず、その点については悔いが残り、次回以降の課題としたいと思います。



会場の外観



私が発表した部屋



発表後の私



小茂鳥先生と発表後の私



大規模なエキシビジョン



現地のレストランにて鈴木先生，小茂鳥先生，前川君，私

会議が開催された5日間を通して、様々な分野の発表を聴講しました。この会議は学生よりも大学や先生や研究所の研究者の発表が多くあり、特に英語での発表の仕方や質疑応答の仕方など参考になることが多くありました。一方、私がこれまで行ってきた研究内容やプレゼン方法は、国際会議の場でもある程度通用するということも感じました。今回の経験を活かし、今後の国際会議ではより良い発表ができるように努力したいと思います。

最後になりましたが、今回このような機会を与えていただき、また発表練習等にお付き合いいただいた小茂鳥先生に深く御礼申し上げます。また、今回の発表で連名者となっただき、日頃より研究についてご指導いただいている高周波熱錬株式会社の深沢様、広島大学の曙先生、神戸大学の菊池先生に感謝申し上げます。現地では慶應義塾大学理工学部機械工学科の鈴木先生、鈴木研究室の前川君にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。